

ESD による地域創生を目指して

岡山県岡山市市民協働局 ESD 推進課 内藤 元久

現在、地球規模の環境問題や、少子高齢化・ライフスタイルの多様化による地域社会を支えてきたコミュニティの変容等の新たな課題が顕在化してきており、こうしたことに対応して持続可能な地域づくりを進めていくためには、私たち一人ひとりの意識と行動の変革が不可欠であることから、国際機関や国レベルの取り組みとともに、地域レベルから ESD に取り組むことが重要となる。

このような認識の下、岡山市では、2005 年の「国連 ESD(持続可能な開発のための教育)の 10 年」の開始に合わせ、同年 4 月に岡山 ESD 推進協議会を設立するとともに、国連大学が提唱していた「ESD の地域拠点」(RCE) の考え方等をベースとして、岡山 ESD 推進プロジェクトを開始した。

岡山 ESD プロジェクトは、地域内の学校・社会教育機関、大学、企業、メディア、自治体等の様々な組織が連携して、地域の特性に応じた ESD に取り組むことにより、地域全体の意識・行動の変革を目指すもので、参加組織数は、開始当初の 19 から現在約 300 に拡大するとともに、活動分野についても環境教育や国際理解が主体であったものが、その後、環境・経済・社会・文化に関わる地域の様々な活動について ESD として捉え直す取り組みが進み、対象分野が広がってきている。

また、市の関係各課等においても、自然保護や地球温暖化対策、廃棄物対策、市民協働、自転車利用促進、子育て支援、国際交流等の様々な施策・事業について、「ESD 関連事業」として実施している。

そして、これらの活動を通じて、地域の愛着心の高まりや地域活動への積極的な参加等の意識や行動の変容が進み、地域活動の活性化に繋がってきている事例が生まれている。

また、全国各地で ESD を推進している学校・社会教育機関、大学、地域 ESD 活動推進拠点等においても同様な成果が上がっていると認識している。

一方で、このような広域的で複合的な要因に起因した課題の解決に向けては、単独の組織や自治体のみで取り組むことは難しいことから、岡山市では ESD の開始当初から、国連大学をはじめユネスコや国内外の ESD に関わる組織・地域によるネットワークを通じて、多くの先進事例を学び、また助言・サポートを得てきたことは大変有意義であったと考えている。

特に、ESD や持続可能な社会づくり等をテーマとして、市民等と国内外の関係者との新たな交流が広がった結果、地域全体で持続可能なまちづくりに関する意識の変化や新たな気づき、各地域の活動の活性化、中心市街地の新たな賑わいづくり等に繋がってきていると考えている。

2018 年、岡山市は内閣府から「SDGs 未来都市」に選定された。

SDGs は地方自治体の施策・事業全般に関わるものであるが、その中において「ESD は、SDGs の全ての目標達成の鍵」と言われており、本市としては、これまでまち全体で取り組んできた ESD 活動の成果を活かし、引き続き ESD を一層推進していくことにより SDGs を推進していく方針である。

このような中で、この度、「ESD を通した地域創生」や「SDGs 教育の推進」等をテーマとした新たな自治体ネットワーク組織として「全国 ESD・SDGs 自治体会議」が設立されることは、本市として、大変有難いことと考えている。

今後、関係自治体との連携を深めて共に学びあいながら、それぞれの特性を踏まえた ESD や地域創生を推進していくことにより、広域的な SDGs の実現に貢献していきたいと考えている。